

親子栽培

刈谷市立重原幼稚園（愛知県刈谷市）

[5 歳児]

親子栽培を通して「おやこすくすく日記」に記入された親子での気付きや発見、疑問などについて保育者も一緒に探究したり保育に活かしたりして、幼児が更に好奇心や探究心を膨らませるような働きかけをする。

5歳児は、夏野菜、稲、サツマイモ、ヒマワリを育てている。Y児は自分が育てているヒマワリのつぼみの様子に興味をもち、「おやこすくすく日記」に「上から見たヒマワリのつぼみ」「前から見たヒマワリ」を絵に表した。

Y児の日記をクラスみんなに紹介

U児「えっ？これどうなってるの？」と不思議そうに言う。

S児「普通ヒマワリの花はこうなってるよねえ」と言い、花びらが開いたヒマワリの様子を空中に指で描く。周りの幼児もそれを見て同じ思いだったようで、「そうそう」「こういう形だね」と口々に言う。

Y児「上から見たら・・・」

U児「え？上から見たの？」と驚いたように言う。

他児も「えー？」と驚いた表情を浮かべたり、友達と顔を見合わせたりする。

Y児「うん。だって、こうなってたから上から見たの」と両手首をくっつけて、手のひらを上に向けながら花の様子をやってみせる。

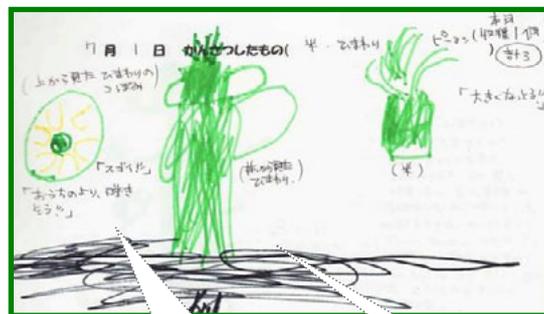
S児「でもさ、ヒマワリってお日様が好きだからお日様の方を見るんだよ」と納得いかない様子。

Y児は少し自信なさそうに「咲いてる時は知らんけど、上向いてたもん」と言う。

保育者「まだ咲いていなかったのかな？」と尋ねる。

Y児「う～ん、まだ開いとらん。ちょっとは開いてるけど」と言う。

みんなはY児の言っている意味が分からなかったり納得いかなかったりする様子で、困ったような顔をする。



上から見たヒマワリのつぼみ

横から見たヒマワリ

みんなで確かめる

保育者「ちょっとずつ開いて、咲いていくのかなあ・・・」と疑問を投げ掛ける。

Y児「たぶん」と答える。

幼児らは「えー？」「すげえ！」「見たい！」などと口々に言い、みんなで見に行くことになる。

すると、ほとんどつぼみで少し開き始めたヒマワリがあり、その花の様子を見て、

U児「本当じゃん。上向いとる」と驚く。

A児「上向いてるし、ちょっとだけ咲きそう」と、興奮した様子で、大きな声で話す。

他の幼児も“本当だ”“不思議だな”“びっくりした”という様子で珍しそうにヒマワリを眺めている。

S児「だって、お日様の方を見るんだよ。だってそうなんだもん・・・」と納得いかない様子。

これ、幼稚園のヒマワリと一緒にじゃん！

次の日の朝、クラス全員で畑に行く。

R児「先生、見て。昨日はここまでしか咲いていなかったのに、今日はここまで咲いてる！」

Y児は嬉しそうに、「本当だ。昨日よりたくさん咲いてる」と眺める。

S児「あっ、昨日と違う！先生ほら、昨日はあっち向いてたのに今日はこっち向いてる。やっぱりお日様が好きなんだよ」と興奮して、「やっぱり俺の言った通りだった」と満足そうな顔をする。

その日の給食後、数人が集まって図鑑を見ていると、ヒマワリの箇所を発見する。

R児「あっ！！これ、幼稚園のヒマワリと一緒にじゃん。やっぱり、ちょっとずつ咲くんだ」

Y児「本当じゃん！」と興奮気味に、自分たちが見たのと同じことが書いてあることに喜ぶ。

U児「あっ、これ見て！Sちゃんが言った通りじゃん」

Y児「ねえ、Sちゃん見て！Sちゃんの言った通りだったよ」とS児を呼ぶ。図鑑の『花が咲くまでは、茎が太陽に合わせて東から西へ向きを変えます』という箇所をもう一度みんなで読み、納得の表情を浮かべる。

事例の詳細 実践事例集Vol.6 <http://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/vol6/3-4.html>

みどころ

幼稚園の栽培活動に保護者も一緒にかかわることで、園と家庭との活動の連続性が生まれます。子どもにとって園も家庭も大事な場で、切り離せるものではなく意識はつながっています。園で体験したことを家庭で伝え、家庭で話題になったことからまた新たな疑問にぶつかったり、気付きを引き起こしたりします。そうした子どもの好奇心や探求心を、園と家庭の連携によって支えることで、科学する心が育っていくことと思います。